

---

# 小学校3年生で

kodomozurumuke

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

小学校3年生で

### 【Nコード】

N22200

### 【作者名】

kodomozurumuke

### 【あらすじ】

隆少年が受けることになった手術は何とおちんちんの皮を切つてもらうというものだったのです。病気になったわけなのに何で手術をすることになったのでしょうか？そして手術を終えた隆少年のその後は・・・

## 手術が決まるまで

隆は4人兄弟の長男でした。ごく普通の家庭に育ちました。

隆は小学校に入学した日の夜、初めておちんちんの皮を剥くという体験をしました。遊んでむいてみたり、木登りなどをしている時に自然と剥けた経験がある人もいます。でも隆にはそういう経験がなく、その日が初めてでした。

いつものように一緒にお風呂へ入りました。体を洗ってもらい、浴槽に入ろうとしたそのとき、母親が「今日から小学生、お兄ちゃんだからひとつ覚えなくちゃね」といいました。そして「ちんちんの中には沢山ばい菌がたまってしまうから、毎日皮を剥いて綺麗に洗わなくちゃいけないんだ。やってみなさい」といわれました。でも当然、どうやって剥くかなど知りません。よくわからないという顔をしていると、母は隆のおちんちんの先端付近をつかみ、ちよつと力を入れて皮を剥いたのです。7割くらいまでは問題なく出来ましたが、そこから先は痛みがありました。母は一度皮を戻してくれましたが、また力をいれて剥き、今度は一気に剥いてしまいました。隆は痛い痛いと大声で泣き叫びました。「最初は痛いけどすぐなくなるから必ず毎日剥くのよ」と言われました。毎日一緒にお風呂に入って目の前でやらされます。もしやらなければ母親にまた剥かれてしまいますので、仕方なく自分で少しずつ剥くようにしました。溝まで剥いたらお湯をかけてもらい、またかぶせる、という繰り返しでした。これがしばらく続きました。少したつと剥くことが痛くなくなりました。

小学校1年生のときは毎日、親と一緒に入っていたので目の前で剥き、お湯をかけてもらうことの繰り返しでした。最初に一人で入

浴したのは小学校2年生の夏休み明けくらいだったでしょうか。しばらくは一人の時と親と一緒にの時が交互でした。最初は一人で入浴したときもすっかり洗っていました。しかし、だんだん面倒になっていきました。なので親が見ているときだけ、やるようになっていきました。小学校3年生になると毎日1人で入っていましたから、全然洗っていませんでした。幸い、炎症を起こすこともなく、親にばれませんでした・・・

・・・と自分では思っていたのです。しかし親はちゃんと見ていました。実は父親が深夜、寝静まった頃に隆のちんちんが洗えているか確認しに来ていたのです。ふとんをめくり、パンツを少しさげ、ゆっくり皮をさげ、洗えているか調べました。数ヶ月に1度、これをやっていたようです。当然洗っていないので汚れもたまっています。親はチエツクした翌朝、いつも隆に「洗ってるか？」と聞いていました。隆は、「うん、やってるよ」といつもそをついていました。父親はちゃんと知っていたのです。遂に父親は怒ってしまいました。小学校3年生の5月連休、隆をおもちゃ屋に連れて行きおもちゃを1つ買ってくれました。そのまま家に帰るのかと思いきや、次に病院へと向かったのです。

## 手術して

病院で待っている間、何をするのか親に何回も聞きましたが、教えてくれませんでした。名前が呼ばれ病室へ入りました。親と先生が打ち合わせしている間、自分は看護婦さんにパンツとズボンを脱いでカゴの中に入れるように言われ、仕方なくそのようにしました。隆もどこを治療されるのか、何となくわかりました。看護婦さんに「ちんちんに何かするの？」と聞きました。でもまさか皮を切るとは考えてませんでした。

ベッドに寝ると先生が来て看護婦さんに体を押さえつけられました。そしてちんちんに注射が打たれたのです。初めて経験する痛みに大泣きでした。その後、眠くなってしまい、目がさめたらおちんちんには包帯がまかれていました。家に帰ってもまだ眠かったのでそのまま寝てしまいました。トイレに行きたくなり目が覚めました。包帯がついたままではトイレに行けないので母親に伝えたら丁寧に包帯をはがしてくれました。母親がトイレまで付き添ってくれました。尿はしっかりと出ましたが、自分でもびっくりしてしまいました。それまでおちんちんを覆っていた皮はありませんでした。

部屋に戻ると、父親からなぜ手術をしたのか、説明されたのです。何回言っても洗わなかったから皮の中が汚れていたし、洗っていないのにうそをついていたから皮を切った、といわれました。こうしてまだ小学校3年生の隆のおちんちはむけた状態になってしまいました。

学校では6月にプールがはじまります。まだ3年生ですからタオルで隠すなんて習慣もなく、男子も女子も教室で裸になって着替えています。着替えるのが遅い隆は、むけていることがすぐ友達に

発見されてしまいました。一人が「あれ隆、そのちんちんどうしたの？」といったことからクラス中の視線が集まりました。変なの、何があつたの、と注目されました。「お父さんのと同じ形だよ」  
「むいてある状態だよね」という声もありました。この年のプールが終わるまで、毎日がこんな感じでした。プール休みたい、とも思いましたが親が許してくれるわけありません。当時通っていたスイミングにも週に1回、必ず行かされました。その友達にも同じようにからかわれました。小4になってもプールが始まるとまた話題になりました。でも、みんなもだんだんあきてきて関心がなくなっていました。

立場が変わったのは小5のときでした。クラスメイトの一人が包皮炎になつて包茎手術を受けました。それを聞いた同じ団地の子の親も乗じて手術を受けさせました。その結果、むけている小5が3人もいることになつたのです。小3・小4の時は周囲にむけている人がいなくて辛い思いをした隆も、2人の仲間を得て心強くなりました。そしてそれ以降、隆のおちんちはみんなから羨ましがられるようになったのでした。

## 手術して（後書き）

書いていて懐かしかったです。同じような体験した人がいれば是非、お話ししたいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2220o/>

---

小学校3年生で

2010年10月10日04時17分発行